

令和4年度 志比田こども園 自己評価表

保育理念	子ども達が未来を健やかに生きていく為の基礎を育てる			
保育目標	・自主性のある子ども ・創造性のある子ども ・素直で明るい子ども ・がまん強い子ども			
自己評価（保育の計画・健康及び安全・職員の資質向上と自己評価）				
項目	評価の観点	評価項目	評価	意見・改善策
保育・教育の計画	(1) 保育課程の編成	保育所保育指針、こども園教育要領に示されたねらい、内容を取り入れた編成	A	子どもの可能性を伸ばすために、各年齢に応じた環境を提供した。基本的生活習慣が身に付くよう0才～6才まで連続性のある保育の実践を据え、「自分で出来た」という達成感に繋げる。
	(2) 指導計画の作成と展開	長期・短期計画の作成	B	子ども達の生活の連続性と姿を考慮し、長期的な計画は年間計画・月の計画によって見通しを持ち、短期的な計画は、子どもたちの様子をふまえ、週・日案を作成している。行事等で中断されることがないよう連続性・継続性を考慮した。
		生活の連続性・子どもの姿を考慮	A	
	(3) 発達過程に応じた保育	未満児の個別計画	A	0～1歳児は個々の成長や発達、興味の度合いが異なる為、個別計画に沿った関わりが出来るよう努めた。2～3歳児は以上児とのかかわりが持てるよう配慮し、以上児では、みんなで協力して取り組む活動(マーチング)や異年齢、地域との交流を意識した。
		以上児への協同的な活動の促し	A	
	(4) 特別支援保育の対応	指導計画への位置づけ	A	特別支援の必要な児童は個別計画を作成し、基本的生活習慣の確立と共に、無理なく集団に入れるよう可能な限り保育教諭を配置し配慮している。保護者の気持ちを尊重した上で、子どもにとっての一番を考え情報を提供し、市や療育センター等との連携に努めた。
		保護者・関係機関との連携	A	
	(5) 関係機関等との連携	関係校区小学校との連携	B	大王小とは、年4回、保・幼・小連絡会にて意見交換等行っている。保護者・地域へは、連絡帳や園だより、クラスだより、地区だより、ホームページ等を利用し園の情報を公開した。木育活動を通して地域との触れ合いを楽しんだ。
		保護者・地域との連携	A	
健康及び安全	(1) 子どもの健康支援	健康状態等の把握と疾病等への対応	A	連絡帳に毎朝の体温と体調を家庭より記入してもらい、職員間で健康状態を共有した。感染力の強い疾患には、流行状況を掲示し蔓延防止に努めた。
	(2) 環境及び衛生管理・安全管理	設備・用具などの衛生管理	B	毎日清掃を実施することで快適な保育環境を整え、室内的温度や湿度等を考慮し十分な換気を行うよう努めた。
		安全点検・避難訓練等の実施	A	毎月、遊具と環境の安全点検を行い、避難訓練を実施することで、安全な園環境に心がけた。
	(3) 食育の推進	食育計画の作成と実践	A	年齢毎に食育計画を作成し、計画的に意識化し実践できるようにした。アレルギー等への対応は医師の検査結果をもとに、可能な限り個別対応を行った。
		アレルギーなどへの対応	A	野菜を育て調理するなど食育を通して知識も広まり体験することができた。
資質向上	(1) 施設長の責務	法令遵守・職員指導・研修への促し	A	運営規程のとおり法令を遵守し、職員には園内外の研修に積極的に参加するよう案内を掲示して促している。責任者・リーダーは、職責に応じた研修に参加し、スキルアップにつなげた。
	(2) 自己研鑽	研修等への積極的な参加	B	経験年数や担当クラス、過去に受講した研修を参考に研修内容を案内し、参加を促す。職員会議等を通じて研修報告を行い、職員間の情報共有を行った。
	(3) 目標管理	一年間の目標設定と振り返り	B	年間指導計画や月案・日誌等に自己の反省を書き、保育の振り返りを行う事で継続した保育に努めた。

達成状況 A 優 B 良 C 可 D 不可

以上のように報告いたします。

令和5年5月22日

社会福祉法人 小鳩会 志比田こども園
園長 新川 格子



令和4年度 あやめ原こども園 自己評価表

保育理念	子ども達が未来を健やかに生きていく為の基礎を育てる			
保育目標	・自主性のある子ども ・創造性のある子ども ・素直で明るい子ども ・がまん強い子ども			
自己評価（保育の計画・健康及び安全・職員の資質向上と自己評価）				
項目	評価の観点	評価項目	評価	意見・改善策
保育・教育の計画	(1) 保育課程の編成	保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されたねらい、内容を取り入れた編成	A	子どもの可能性を伸ばすために、各年齢に応じた環境を提供した。基本的生活習慣が身に付くよう0才～6才まで、連続性のある保育の実践を据えた。
	(2) 指導計画の作成と展開	長期・短期計画の作成	A	長期的に年間計画、月の計画によって見通しを持ち、短期的な計画は、週・日案としている。
		生活の連続性・子どもの姿を考慮	A	子ども達の生活の連続性と遊びのなかでの育ちを考慮し計画を作成している。
	(3) 発達過程に応じた保育	未満児の個別計画	A	個別計画に沿った関わりが出来るよう勤めた。
		以上児への協同的な活動の促し	A	以上児では、みんなで協力して取り組む活動や異年齢交流を意識した。
	(4) 特別支援保育の対応	指導計画への位置づけ	B	特別支援の必要な児童には、可能な限り、保育教諭を配置した。個別計画を作成して、基本的生活習慣の確立と共に、集団保育を通じて発達を促し、交流できるように配慮している。保護者や市役所、支援センター等と連携するよう心がけている。
		保護者・関係機関との連携	A	
健康及び安全	(5) 関係機関等との連携	関係校区小学校との連携	B	東小とは、保・幼・小連絡会の機会を設け、意見交換等行っている。保護者・地域へは、連絡帳や園だより、ホームページ等を利用し園の情報を公開した。また、コロナ禍により近隣の小・中・高校や地域の高齢者との交流が例年通りには開催できなかった。
		保護者・地域との連携	A	
	(1) 子どもの健康支援	健康状態等の把握と疾病等への対応	A	連絡帳に毎朝の体温と体調を家庭より記入してもらい個々の体調管理に配慮した。感染力の強い疾病に対しては、消毒等をしっかりと行い、蔓延防止に努めた。
	(2) 環境及び衛生管理・安全管理	設備・用具などの衛生管理	B	
		安全点検・避難訓練等の実施	B	寒暖や温度差等を考慮し、毎日清掃を実施することで、快適な保育環境を提供した。毎月、安全点検と避難訓練を実施し、安全な園環境に心がけた。
資質向上	(3) 食育の推進	食育計画の作成と実践	A	全園児、年齢毎に食育計画を作成し、計画的に意識化し実践できるようにした。アレルギー等への対応は、医師の検査結果をもとに、可能な限り、個別対応を行った。
		アレルギーなどへの対応	A	
	(1) 施設長の責務	法令遵守・職員指導・研修への促し	A	運営規程のとおり法令を遵守し、職員には、園内外の研修に積極的に参加するよう、案内を掲示して促している。また、責任者・リーダーは、職責に応じた研修に参加し、スキルアップにつなげた。
(2) 自己研鑽	研修等への積極的な参加	B	経験年数や担当クラス、過去に受講した研修を参考に研修内容を案内し、参加を促す。オンライン研修で職員が参加しやすく、職員間の情報共有を行った。	
	(3) 目標管理	一年間の目標設定と振り返り	B	年度末に、「クラスの反省(保育全般)」と「自己の反省」を書くことで、職員全員が一年間の振り返りを行っている。

達成状況 A 優 B 良 C 可 D 不可

以上のように報告いたします。

令和5年 4月3日

社会福祉法人 小鳩会 あやめ原こども園

園長 新川 宏人

